

日独フォーラム

第 30 回合同会議

2022 年 11 月 16 日(水)～18 日(金)

本会議場：衆議院第一議員会館国際会議室

目次

日程

参加者名簿

日本側参加者プロフィール

ドイツ側参加者プロフィール

ヤング・リーダーズプロフィール

日程

11月16日 (水)

18:00 山田賢司外務副大臣主催レセプション [飯倉公館]

11月17日 (木)

9:30 日独共同座長による開会の挨拶

日本側座長： 小林 栄三 (伊藤忠商事株式会社名誉理事)

ドイツ側座長： マティアス・ナス (ディ・ツァイト紙外信局長)

9:40-12:30 第1セッション 日独の政治経済情勢：ウクライナ危機の中で発足
1年を迎える新政権

司会： 小林 栄三

日本側スピーカー： 吉野 直也 (日本経済新聞社政治部長)

ドイツ側スピーカー： カール＝ルドルフ・コルテ (デュイスブルク・エッセン
大学政治学研究所教授)

11:00-11:15 コーヒーブレイク

12:30-13:30 昼食 [衆議院第一議員会館多目的ホール]

13:30-17:00 第2セッション 権威主義の拡大・民主主義の危機・グローバル
インフレに立ち向かう日独の役割

司会： マティアス・ナス

ドイツ側スピーカー： クラウディア・マヨール (ドイツ国際安全保障研究
所国際安全保障研究部長)

日本側スピーカー： 市川 とみ子 (公益財団法人日本国際問題研究所所長)

15:00-15:15 コーヒーブレイク

18:30 クレーメンス・フォン・ゲッツェ 駐日ドイツ連邦共和国大使
主催レセプション [大使公邸]

11月18日（金）

9:30-12:30 第3セッション エネルギー戦略の再策定と日独協力の可能性：
『ロシア依存脱却』と『脱炭素化』の両立に向けて

司会： 小林 栄三

日本側スピーカー： 保坂 伸（資源エネルギー庁長官）

ドイツ側スピーカー： ペーター・ヘンニッケ（日独エネルギー変革協議会
ドイツ側議長）

11:00-11:15 コーヒーブレイク

12:30-13:15 昼食 [衆議院第一議員会館多目的ホール]

終了

17:00-17:15 ドイツ側参加者、松野博一官房長官への表敬訪問
[総理官邸3階南会議室]

参加者名簿

[座長]

小林 栄三
Eizo KOBAYASHI
伊藤忠商事株式会社名誉理事
Director Emeritus, ITOCHU Corporation

マティアス・ナス
Matthias NASS
デイ・ツァイト紙外信局長
Chief International Correspondent,
Weekly Newspaper DIE ZEIT

[日本側参加者]

遠藤 乾
Prof. Dr. Ken ENDO
東京大学法学部教授／日本国際問題研究所客員研究員
Professor, Faculty of Law, The University of Tokyo;
Adjunct Fellow, Japan Institute for International Affairs

藤 康範
Yasunori FUJI
株式会社小野測器監査役
Corporate Auditor, Ono Sokki Co., Ltd.

玄葉 光一郎
Koichiro GEMBA
衆議院議員（立憲民主党）
Member of the House of Representatives
(The Constitutional Democratic Party of Japan)

原田 英一
Dr. Eiichi HARADA
川崎重工業株式会社常務執行役員・水素戦略本部長
Managing Executive Officer/General Manager, Hydrogen Strategy
Division, Kawasaki Heavy Industries, Ltd.

保坂 伸
Shin HOSAKA
資源エネルギー庁長官
Commissioner, the Agency for Natural Resources and Energy at the
Ministry of Economy, Trade and Industry (METI)

市川 とみ子
Tomiko ICHIKAWA
公益財団法人日本国際問題研究所所長
Director General, The Japan Institute of International Affairs (JIIA)

稲葉 延雄
Nobuo INABA
リコー経済社会研究所参与
Executive Advisor, Ricoh Institute of Sustainability and Business

岩間 陽子
Prof. Dr. Yoko IWAMA
政策研究大学院大学教授
Professor, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS)

柿木 英人
Hideto KAKINOKI
日経メディアプロモーション株式会社代表取締役社長
President/CEO, Nikkei Media Promotion Inc.

柏 頼之
Yoriyuki KASHIWAGI
日本航空株式会社常務執行役員・総合政策センター長
(秘書・渉外担当)
Managing Executive Officer, The Policy Management Center,
Japan Airlines Co., Ltd.

加藤 出 Izuru KATO	東短リサーチ株式会社代表取締役社長兼チーフエコノミスト President & Chief Economist, Totan Research Co., Ltd.
川村 陶子 Prof. Dr. Yoko KAWAMURA	成蹊大学文学部国際文化学科教授 Professor, Department of Cross-Cultural Studies, Faculty of Humanities, Seikei University
北岡 伸一 Dr. Shinichi KITAOKA	独立行政法人国際協力機構特別顧問 Special Advisor to the President, Japan International Cooperation Agency
城内 実 Minoru KIUCHI	衆議院議員（自由民主党） Member of the House of Representatives (Liberal Democratic Party)
小松 万希子 Makiko KOMATSU	小松ばね工業株式会社代表取締役社長 President and Representative Director, Komatsu Spring Industrial Co., Ltd.
三浦 俊章 Toshiaki MIURA	ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員） Journalist
三好 範英 Norihide MIYOSHI	ジャーナリスト（元読売新聞国際部編集委員） Journalist
森 雅彦 Dr. Masahiko MORI	DMG森精機株式会社取締役社長 President, DMG MORI Co., LTD
成川 哲夫 Tetsuo NARUKAWA	三菱地所株式会社取締役/岡三証券株式会社社外取締役 Director, Mitsubishi Estate Co., Ltd./ Outside Director, Okasan Securities Co., Ltd
二村 伸 Shin NIMURA	NHK専門解説委員 Senior Commentator, Japan Broadcasting Corporation
大河原 昭夫 Akio OKAWARA	公益財団法人日本国際交流センター理事長 President, Japan Center for International Exchange (JCIE)
大久保 規子 Prof. Dr. Noriko OKUBO	大阪大学大学院法学研究科教授 Professor, Graduate School of Law and Politics, Osaka University
柳 秀直 Hidenao YANAGI	駐ドイツ連邦共和国日本国特命全権大使 Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to the Embassy of Japan in Germany
吉野 直也 Naoya YOSHINO	日本経済新聞社政治部長 Chief Political Editor, Nikkei

【ドイツ側参加者】

ヴェレーナ・ブレッヒンガー＝ タルコット Prof. Dr. Verena BLECHINGER-TALCOTT	ベルリン自由大学副学長/東アジア研究所・日本学教授 Vice President/Professor of Institute of East Asian Studies, Japanese Studies, Free University Berlin
クレメンス・フォン・ゲッツェ Ambassador Dr. Clemens von GOETZE	駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使 Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Federal Republic of Germany
ペーター・ヘンニッケ Prof. Dr. Peter HENNICKE	日独エネルギー変革協議会ドイツ側議長 German Chairman, German Japanese Energy Transition Council (GJETC)
カール＝ルドルフ・コルテ Prof. Dr. Karl-Rudolf KORTE	デュイスブルク・エッセン大学政治学研究所教授 Professor, Institute of Political Science, Duisburg-Essen University
クラウディア・マヨア Dr. Claudia MAJOR	ドイツ国際安全保障研究所国際安全保障研究部長 Head of Research Division, International Security, German Institute for International and Security Affairs (SWP)
マティアス・モースドルフ Matthias MOOSDORF	独連邦議会議員（ドイツのための選択肢） MP(Alternative for Germany)
ミヒャエル・ミュラー Michael MULLER	独連邦議会議員（ドイツ社会民主党） MP (Social Democratic Party of Germany)
フランク・ミュラー＝ ローゼントリット Frank MUELLER-ROSENTRITT	独連邦議会議員（自由民主党） MP (Free Democratic Party)
ユリア・ミュンヒ Dr. Julia MÜNCH	ベルリン日独センター事務総長 Secretary General, Japanese-German Center Berlin
ガブリエレ・フォークト Prof. Dr. Gabriele VOGT	ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘンアジア研究 学部長・日本学科長 Chair in Japanese Studies, Director to Department of Asian Studies, Ludwig Maximilian University of Munich
ヨーハン・ワーデフル Dr. Johann D. WADEPHUL	独連邦議会議員(キリスト教民主同盟・社会同盟) MP (Christian Democratic Union/ Christian Social Union)
フランツ・ヴァルデンベルガー Prof. Dr. Franz WALDENBERGER	ドイツ日本研究所所長 Director, German Institute for Japanese Studies
ゲルハルト・ヴィースホイ Gerhard WIESHEU	B・メッツラー・ゼール・ゾーン&Co.・ホールディングス 株式会社取締役 Member of the Executive Board, B Metzler seel. Sohn & Co. Holding AG

[ヤングリーダー]

ダニエラ・プラシュケ	フォルクスワーゲングループジャパン株式会社フォルクスワーゲングループ東京技術代表オフィス渉外担当・イノベーションストラジテスト&フォルクスワーゲングループ フューチャーヘッドネットワークリーダーシップメンバー
Dr. Daniela BLASCHKE	Public Affairs and Innovation Strategist & Co-Lead within the Volkswagen Group Future Heads Network, VOLKSWAGEN Group Technical Representative Tokyo, VOLKSWAGEN Group Japan K.K.
ランドルフ・カー	ミュンヘン安全保障会議財団政策担当シニア政策アドバイザー（留学休職中）
Randolf CARR	Senior Policy Advisor (on leave), Munich Security Conference Foundation
池田 貴一	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構総務部主任
Kiichi IKEDA	Chief Officer, General Affairs Department, New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO)
佐久間 早紀	日本経済団体連合会国際経済本部米国・貿易投資担当
Saki SAKUMA	International Affairs Bureau (in charge of the U.S. affairs, Trade and Investment), Japan Business Federation

[Observers]

石川 誠 Makoto ISHIKAWA	株式会社伊藤忠総研上席主任研究員 Senior Research Associate, ITOCHU Research Institute Inc.
岩坂 英美 Emi IWASAKA	株式会社伊藤忠総研副主任研究員 Research Associate, ITOCHU Research Institute Inc.
狩野 功 Isao KANO	公益財団法人日本国際交流センター理事 Member, Board of Directors, Japan Center for International Exchange
中島 卓哉 Takuya NAKAJIMA	日本航空株式会社総合政策センター調査研究部アシスタント マネージャー Manager Executive Officer, The Policy management Center, Japan Airlines Co., Ltd.
澤村 広樹 Hiroki SAWAMURA	外務省欧州局中・東欧課課長補佐 Deputy Director, Central and South Eastern Europe Division, European Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs
高島 亜紗子 Asako TAKASHIMA	公益財団法人日本国際問題研究所リサーチフェロー Research Fellow, The Japan Institute of International Affairs (JIIA)
武田 淳 Atsushi TAKEDA	株式会社伊藤忠総研チーフエコノミスト Chief Economist, ITOCHU Research Institute Inc.
カルステン・ キーゼヴェッター Karsten KIESEWETTER	駐日ドイツ大使館防衛担当官 Defense Attaché, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
グナー・ミヒェール Gunnar MICHEEL	駐日ドイツ大使館二等書記官 Second Secretary, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
ダニエル・ オッケンフェルト Daniel OCKENFELD	独外務省日本部担当官 Desk Officer Japan, Federal Foreign Office
大石 式部 Shikibu OISHI	駐日ドイツ大使館一等書記官 First Secretary, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
エリック・ラインハルト Erik REINHARD	駐日ドイツ大使館一等書記官（経済担当） First Secretary, Economic Affairs, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan

クラウディア・ シュミッツ Claudia SCHMITZ	駐日ドイツ大使館公使参事官 Minister Counsellor, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
團・ティーデン Dr. Dan TIDTEN	駐日ドイツ大使館一等書記官 First Secretary, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
クラウス・フィーツェ Dr. Klaus VIETZE	駐日ドイツ大使館次席公使 Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan
スザンネ・ヴェルター Susanne WELTER	駐日ドイツ大使館公使・経済科学部長 Minister, Head of Economic and Scientific Department, Embassy of the Federal Republic of Germany to Japan

[Secretariat]

石山 紀行 Patrick ISHIYAMA	公益財団法人日本国際交流センターウェブ／出版デザイナー Digital and Print Production Officer, JCIE
金子 佳南 Kana KANEKO	公益財団法人日本国際交流センタープログラムアソシエート Program Associate, JCIE
李 恵珍 Dr. Hyejin LEE	公益財団法人日本国際交流センターシニアプログラムオフィサー Senior Program Officer, JCIE
毛受 敏浩 Toshihiro MENJU	公益財団法人日本国際交流センター執行理事チーフ・プログラム・オフィサー Managing Director and Chief Program Officer, JCIE
フェーベ＝ステラー・ ホルドグリュン Dr. Phoebe Stella HOLDGRÜN	ベルリン日独センタープロジェクト・マネージメント部長 Head of Conferences/Project Management, Japanese-German Center Berlin (JDZB)
清田 とき子 Tokiko KIYOTA	ベルリン日独センター副事務総長 Deputy Secretary General, Japanese-German Center Berlin
アメリー・レヒターペ Amélie LECHTAPE	ベルリン日独センター事務総長補佐官 Assistant to Secretary General, Japanese-German Center Berlin
スヴェン・ トゥラシェフスキ Sven TRASCHEWSKI	ベルリン日独センター会議・プロジェクトマネージメント担当官 Conferences/Project Management, Japanese-German Center Berlin (JDZB)

日本側参加者プロフィール

【座長】

小林 栄三

伊藤忠商事株式会社名誉理事

1972年伊藤忠商事株式会社入社、電子機器部を経て1976年に香港、1986年にロスアンゼルスへ駐在。1997年情報産業事業部長、1999年情報産業部門長を歴任。2002年に常務、2004年に専務を経て同年代表取締役社長に就任。2010年より代表取締役会長、2018年より特別理事、2020年4月より現職。日独フォーラムの日本側座長以外にも、日本・トルコ協会会長のほか、企業の社外役員や省庁の有識者委員などを多数務める。

【参加者】

遠藤 乾

東京大学法学部教授／日本国際問題研究所客員研究員

北海道大学法学部卒業、北海道大学大学院法学研究科修士課程修了、ベルギー・カトリック・ルーヴァン大学大学院修士課程修了、オックスフォード大学博士課程修了（政治学博士）。北海道大学法学部助教授、北海道大学公共政策大学院法学部教授を経て、2022年より現職。他、欧州大学研究所ジャンモネ研究員、欧州大学院フェルナン・ブローデル上級研究員等を歴任。専門はEU、安全保障、国際政治。2012年より日本外務省政策企画ユニット研究会メンバーを務めたほか、日韓トラック1.5政策対話メンバーであり、日中間の政策対話も組織。2015年より外務省政策評価委員、2017年より日本国際問題研究所で欧州情勢に関する研究会主査。より広い市民のフォーラムへも積極的に関与し、日本・中国・韓国・台湾の識者・実務家が集う北海道ダイアログの創設メンバー。主な著書に、『欧州複合危機－苦悶するEU、揺れる世界』（中公新書、2016年）、『統合の終焉－EUの実像と論理』（岩波書店、2013年）（読売中央公論・吉野作造賞受賞、2014年）、編著に、『主権はいま』（筑摩書房、2019年）等。

藤 康範

株式会社小野測器監査役

一橋大学社会学部卒業。1979年に三菱銀行（現三菱UFJ銀行）入行、デュッセルドルフ、フランクフルト、ロンドン、人事部、本店営業部、シンガポール等で勤務の後、2003年営業第五部長、2005年ドイツ総支配人兼デュッセルドルフ支店長。2009年株式会社ツムラ執行役員CSR推進室長。2011年取締役就任。2015年取締役上席執行役員コンプライアンス統括部長。2020年株式会社小野測器監査役（非常勤）。2021年アイエックス・ナレッジ株式会社監査役（非常勤）。元デュッセルドルフ日本商工会議所会頭。元ドイツ外国銀行協会理事。

玄葉 光一郎

衆議院議員（立憲民主党）

1987年上智大学法学部卒業後、松下政経塾に入塾。1993年福島県選挙区より衆議院に初当選（無所属）、現在9期目。1998年民主党結成に参画。民主党では、政策調査会長、幹事長代理、選対委員長などを務める。2010年6月から菅政権にて、国家戦略担当、公務員制度改革担当大臣、内閣府特命担当大臣（「新しい公共」、少子化対策・男女共同参画担当、宇宙開発担当、科学技術政策担当）などを務める。2011年9月から2012年12月まで野田政権にて外務大臣。

原田 英一

川崎重工業株式会社常務執行役員・水素戦略本部長

1981年川崎重工業（株）に入社、技術研究所にて石炭の低公害燃焼技術の開発に従事。2004年から燃焼・伝熱関連の研究開発の指揮をとり、主力製品であるガスエンジンや過給エンジンの開発を実施。2009年水素サプライチェーンの構想を提案し、開発に着手。水素チェーン開発センターを設立、その後一貫して水素の事業開発に従事。現在、常務執行役員及び水素戦略本部長、技術研究組合CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構（HySTRA）理事長、日本水素エネルギー（株）代表取締役社長。

保坂 伸

資源エネルギー庁長官

1987年に通商産業省（当時）に入省。資源エネルギー庁石油・天然ガス課長や製造産業局自動車課長、経済産業政策局企業行動課長、資源エネルギー庁総合政策課長、大臣官房秘書課長、大臣官房政策評価審議官、大臣官房審議官（経済産業政策局担当）、大臣官房審議官（産業技術環境局担当）等を歴任。2017年7月からの2年間は、資源エネルギー庁次長として、エネルギーインフラの海外展開に関する施策の策定や国際交渉等に従事。2019年7月には貿易経済協力局長に着任し、貿易振興や技術協力、投資促進、貿易管理等の政策立案・実施を牽引。2020年7月より現職。資源エネルギー庁長官として、エネルギー基本計画の策定やエネルギー安定供給の確保、電力・ガス事業規制改革、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進等、あらゆるエネルギー政策を先導。東京大学経済学部卒、米国ミシガン大学大学院経済学修士。

市川 とみ子

公益財団法人日本国際問題研究所所長

1985年東京大学法学部卒業、外務省入省。キングス・カレッジ・ロンドン大学院修士課程修了（国際関係・戦争学修士）。外務本省においては、西欧課長、経済統合体課長（EU）、不拡散・科学原子力課長、経済局政策課長等を務め、在外においては、在英国大使館、在ウィーン国際機関日本政府代表部等にて勤務。国際機関においては、UNPROFOR（旧ユーゴスラビア国連PKO）政務官、国際原子力機関（IAEA）事務局長特別補佐官を経験。2020年7月から（公財）日本国際問題研究所所長代行、2020年12月から現職。

稲葉 延雄

リコー経済社会研究所参与

1974年、東京大学経済学部卒業後、日本銀行に入行。システム情報局長（2001年）、審査局長（2002年）を経て2004年に理事に就任。大阪支店長囑託(2005年)等を経て2008年5月に退任。同月、株式会社リコー特別顧問となり、2010年4月リコー経済社会研究所所長、6月株式会社リコー取締役専務執行役員。2016年4月より株式会社リコー取締役、リコー経済社会研究所常任参与に就任。2017年4月より株式会社リコー取締役会議長。2022年6月同取締役議長退任、現在リコー経済社会研究所参与。

岩間 陽子

政策研究大学院大学教授

京都大学法学部卒業、同大学院法学研究科博士課程修了。京都大学博士。京都大学助手、在ドイツ日本大使館専門調査員などを経て、2000年から政策研究大学院大学助教授。同大学准教授を経て、2009年より教授。専門はドイツを中心としたヨーロッパの政治外交史、安全保障、国際政治学。著書に『核の1968年体制と西ドイツ』、『ドイツ再軍備』、『ヨーロッパ国際関係史』（共著）、『冷戦後のNATO』（共著）、Joining the Non-Proliferation Treaty: Deterrence, Non-Proliferation and the American Alliance, ed. With John Baylis (Routledge 2018); などがある。安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会、法制審議会委員など、多くの政府委員会等のメンバーも務める。

柿木 英人

日経メディアプロモーション株式会社代表取締役社長

1984年国際基督教大学（ICU）教養学部卒、日本経済新聞社に入社。外報部、金融部、経済部などを経て、1992～96年ドイツ・フランクフルト支局駐在。欧州経済および金融政策などを取材。94～96年支局長。帰国後は東京編集局国際部勤務。2007年3月から英文編集部長兼週刊英文経済紙 The Nikkei Weekly 編集長および英文ニュースサイト Nikkei Net Interactive (NNI、後に NIKKEI.com) 編集長。対外情報発信室部長。2011年～12年、日経、朝日、読売の3紙が共同で運営する実験的ニュースサイト「あらたにす」の編集長。2017年～2020年執行役員、常務執行役員、その後日経メディアプロモーションに移り、2022年4月から現職。

柏 頼之

日本航空株式会社常務執行役員・総合政策センター長（秘書・渉外担当）

北海道大学法学部卒。1986年に日本航空（株）入社。2011年より旅客販売統括本部企画部長、2013年より九州地区支配人を務める。2016年4月に日本航空（株）執行役員就任、旅客販売統括本部副本部長・国際旅客販売本部長・Web販売本部長、東日本地区支配人を兼務。2020年4月より日本航空（株）執行役員として秘書部、政策業務部、総合政策センターを担当。2021年4月より現職。

加藤 出

東短リサーチ株式会社代表取締役社長兼チーフエコノミスト

1965年生まれ。1988年横浜国立大学経済学部卒、同年東京短資（株）入社。コール、CD、CP、金融先物のブローカーを勤めながら、1997年2月より東短リサーチ（株）研究員を兼務。2013年2月より現職。日銀ウォッチャーとして金融政策を分析している。週刊ダイヤモンド、毎日新聞、日経新聞Web刊、日経ヴェリタスなどにコラムを連載。TV東京「モーニングサテライト」等にコメンテーターとして出演。著書に『東京マネーマーケット』（有斐閣）、『メジャーリーグとただちゃ豆で読み解く金融市場』（ダイヤモンド社）、『バーナキのFRB』（ダイヤモンド社）、「日銀、『出口』なし！」（朝日新書）など。

川村 陶子

成蹊大学文学部国際文化学科教授

早稲田大学政治経済学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科修士課程および博士課程修了。学術博士（東京大学）。1998年より東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻（ドイツ）助手を務めた後、2000年成蹊大学文学部国際文化学科に専任講師として着任。同大助教授、准教授を経て、2014年4月より現職。専門は国際関係論、とくにドイツを中心とする国際文化関係および文化交流政策。日本国際文化学会常任理事、日本文化政策学会理事。著書に『国際文化関係史研究』（共編著、東京大学出版会、2013年）、『想起の文化とグローバル市民社会（現代ドイツへの視座1）』（共著、勉誠出版、2016年）等。2017年ドイツ連邦議会選挙へのDAAD（ドイツ学術交流会）視察研修に日本代表として参加。文化庁国際文化交流・協力推進委員会委員。成蹊大学の地元武蔵野市にてローカルな文化行政や市民活動にもかかわる。

北岡 伸一

独立行政法人国際協力機構特別顧問

日本政治外交史を専門とし、東京大学にて1971年に学士号、1976年に博士号を取得。立教大学法学部教授、東京大学大学院法学研究科教授、政策研究大学院大学教授を歴任。また2004年から2006年まで特命全権大使（日本政府国連代表部次席代表）、2012年から2015年まで国際大学学長、2015年10月から2022年3月まで国際協力機構理事長を務めた。東京大学名誉教授および立教大学名誉教授。和文及び英文の著書・論文を数多く発表。主な著書は『独立自尊 福沢諭吉の挑戦』（講談社、2002年；中公文庫、2011年）、『グローバルプレイヤーとしての日本』（NTT出版、2010年）、『官僚制としての日本陸軍』（筑摩書房、2012年）、『世界地図を読み直す：均衡と協力の地政学』（新潮社、2019年）、『明治維新の意味』（新潮社、2020年）等。紫綬褒章（2011年）等受賞歴多数。

城内 実

衆議院議員（自由民主党）

1965年生まれ。東京大学卒業。外務省出身。衆議院議員（当選6回）。日独友好議員連盟幹事長兼事務局長。外務副大臣、環境副大臣を歴任。幼少期と外交官時代の計10年近くをドイツ（ボン、アウクスブルク）で過ごした経験があり、ドイツ語が流暢。日独友好議員連盟幹事長兼事務局長として、定期的な訪独や来日独議員との交流など、日独友好協力関係の発展に貢献してきた。2018年2月、ドイツ連邦共和国功勞勲章大功勞十字章を受章。

小松 万希子

小松ばね工業株式会社代表取締役社長

電子機器、医療機器、自動車など様々な精密機器用のばねを製造する小松ばね工業株式会社（1941年創業）に2003年に入社し、総務・経理担当の取締役役に就任。2014年に代表取締役を現会長から承継。厚生労働省労働政策審議会委員、経済産業省産業構造審議会産業技術環境分科会委員、日本商工会議所若者・女性活躍推進専門委員など務める。小松ばね工業（株）は、元気なモノ作り中小企業300社（中小企業選定）、地域未来索引企業に選ばれ、2007年には天皇陛下の行幸を受ける。

三浦 俊章

ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員）

鹿児島県出身。早稲田大学政治経済学部卒業、国際基督教大学大学院修士課程修了。1984年に朝日新聞社入社。政治部、ワシントン特派員、政治・外交担当の論説委員などを務めた。2009年から2010年まで米ハーバード大学研究員（日米関係プログラム）。2011年4月から2013年3月まで、テレビ朝日系列「報道ステーション」のコメンテーター。著書に『ブッシュのアメリカ』（岩波新書、2003年）、共著に『日米同盟半世紀 安保と密約』（朝日新聞社、2001年）、編訳書に「オバマ演説集」（岩波新書、2010年）など。

三好 範英

ジャーナリスト（元読売新聞国際部編集委員）

1959年、東京生まれ。東大教養学部相関社会科学分科卒。82年、読売新聞社入社。1990～93年、バンコク、プノンペン特派員。1997～2001年、2006～08年、2009～2013年、計9年5か月ベルリン特派員を務める。2005～06年ハーバード大日米関係プログラム修了。2022年退社。著書に『特派員報告カンボジアPKO』（亜紀書房）、『戦後の「タブー」を清算するドイツ』（同）、『蘇る「国家」と「歴史」』（芙蓉書房出版）、『メルケルと右傾化するドイツ』（光文社）、『本音化するヨーロッパ』（幻冬舎）。『ドイツリスク』（光文社）で第25回山本七平賞特別賞受賞。同書は台湾で『徳国風険』（玉山社）の書名で翻訳出版される。編著に元駐タイ大使岡崎久彦氏の回想録『国際情勢判断・半世紀』（育鵬社）、元駐米大使加藤良三氏の回想録『日米の絆』（吉田書店）。

森 雅彦

DMG 森精機株式会社取締役社長

1961年奈良県生まれ。1985年京都大学工学部精密工学科卒業後、伊藤忠商事株式会社入社。1993年株式会社森精機製作所(現DMG 森精機株式会社)入社。1999年、37歳で父親である先代(森幸男)を引き継ぎ社長就任。2003年東京大学大学院にて博士(工学)取得。2009年11月GILDEMEISTER Aktiengesellschaft(現DMG MORI Aktiengesellschaft) 監査役就任。2018年5月DMG MORI Aktiengesellschaft 監査役会議長就任。一般社団法人日本工作機械工業会副会長、CIRP(国際生産工学アカデミー)フェロー、京都大学イノベーションキャピタル株式会社 取締役、京都大学経営協議会委員、学校法人東大寺学園 理事・評議員。

成川 哲夫

岡三証券株式会社社外取締役/三菱地所株式会社取締役

1974年慶應義塾大学経済学部卒後、日本興業銀行入行。同審査部企業審査役、人事部参事役を経て、1997年よりドイツ興銀社長、2001年より日本興業銀行営業第十部長を歴任。2002年よりみずほ銀行執行役員審査第三部長、同常務執行役員、同常務取締役を務める。2006年より興和不動産株式会社専務執行役員に就任、同専務執行役員企画管理本部長、同専務取締役兼専務執行役員ビル事業本部長、同代表取締役社長、新日鉄興和不動産株式会社代表取締役社長を歴任し、2015年6月岡三証券株式会社取締役(現任)、2016年6月日本曹達株式会社取締役、2018年6月三菱地所取締役(現任)。

二村 伸

NHK 専門解説委員

1980年NHK入局。海外特派員として15年以上の取材経験をもとに2009年より解説委員をつとめ、今年から専門解説委員としてドイツをはじめとする欧州情勢を中心に解説している。海外では87年よりテヘランでイラン・イラク戦争、90年よりカイロ支局で湾岸戦争や中東和平交渉、南アフリカ民主化等を取材、97年より2004年までボン、ベルリン支局長としてドイツ政治やユーロ導入、EU拡大等を取材、2006年よりバンコクでアジア総局長を務めた。10年より13年まで海外情報番組「海外ネットワーク」キャスター、15年より17年まで解説副委員長を務める。

大河原 昭夫

公益財団法人日本国際交流センター理事長

民間外交のパイオニアである日本国際交流センター（JCIE）の理事長を2014年4月より務める。40年にわたる国際ビジネスや日米関係をはじめとする政治経済の調査・分析の知見を活かし、JCIEの諸活動を主導する。日米文化教育交流会議（カルコン）委員を務めたほか、現在、ベルリン日独センター評議員を務め、さらにJCIEの事業として日英21世紀委員会日本側ディレクター、外国人材の受入れに関する円卓会議座長、グローバル・ヘルスと人間の安全保障プログラム運営委員会幹事、グローバルファンド日本委員会ディレクター等を務める。現職に就任する前は、住友商事株式会社に勤務、1991年ワシントン事務所次席、2001年情報調査部長、2006年より2013年まで住友商事総合研究所取締役所長を務めた。1973年慶應義塾大学法学部卒。

大久保 規子

大阪大学大学院法学研究科教授

行政法・環境法を専門とし、行政訴訟のほか、水管理、市民参加等に関する日独の比較研究を行っている。1990年から1年間、DAADの奨学生としてゲーセン大学に留学し、营造物理論に関する論文で修士号（MAGISTRA IURIS）取得した。一橋大学大学院法学研究科博士後期課程を修了し（博士・法学）、群馬大学専任講師・助教授、甲南大学教授を経て、2005年より現職。この間、コンラードアデナウアー財団の招待により在独研究を行い、欧州行政裁判官協会名誉会員等として、欧州各国の法曹関係者との交流を深めてきた。現在、日本学術会議会員、環境法政策学会常任理事、日本公法学会理事、中央環境審議会委員、交通政策審議会委員、社会資本整備審議会環境部会委員等を務める。

柳 秀直

駐ドイツ連邦共和国特命全権大使

1982年東京大学教養学部教養学科卒業。同年外務省に入庁。以後、在ドイツ日本大使館一等書記官、参事官を歴任。その後、国際情報局分析第一課長、総合外交政策局企画課長を経て、在インド日本国大使館公使及び在ドイツ日本国大使館公使の職に就く。その後、日・ASEAN特別首脳会議準備事務局長、在ミュンヘン日本国総領事館総領事として活躍。ヨルダン国駐箚特命全権大使を経て2020年9月より現職に就任。

吉野 直也

日本経済新聞社政治部長

現職は政治部長（政治・外交グループ長）、政治記者として細川護熙首相から岸田文雄首相まで15人の首相を取材し、財務省、経済産業省、金融庁など経済官庁も担当しました。2012年4月から17年3月までワシントンに駐在し、12年と16年の米大統領選を現地で報じました。著書は「核なき世界の終着点 オバマ対日外交の深層」（16年日本経済新聞出版社）「ワシントン緊急報告 アメリカ大乱」（17年日経BP）。TBS「サンデーモーニング」やBS-TBS「報道1930」、BSテレビ東京「NIKKEI ニュースプラス9」などに出演。

ドイツ側参加者プロフィール

[座長]

マティアス・ナス (Matthias NASS)

ディ・ツァイト紙外信局長

現在ツァイトオンラインにてウィークリー・コラムの執筆。ツァイト・アカデミーのアカデミックを創設。現職前にはアジア研究協会書記及び季刊誌「Asien」編集者を務めた。1982年から1983年までハンブルク大学でジャーナリズムを学んだ後、「ディ・ツァイト」の外交政策担当記者となり（1983-90年）、政治部副部長（1990～94年）、政治部長（1994-97年）、編集局次長（1998年～2010年）を歴任。ゲッティンゲン大学、ハワイ大学、ハンブルク大学で歴史、中国学、政治学を学ぶ。著書として2017年に『韓国のカウントダウン』を、2021年に『竜の踊り—中国の世界での台頭と我々への影響』を出版。

[参加者]

ヴェレーナ・ブレッヒンガー=タルコット (Prof. Dr. Verena BLECHINGER-TALCOT)

ベルリン自由大学副学長/東アジア研究所・日本学教授

日本政治、政治経済学、法律をミュンヘン、京都、東京で学ぶ。1991年に、ミュンヘン大学より日本研究で修士号、1997年には、同大学より政治学博士号を取得。ミュンヘン大学講師（1993～97年）を経て、1997年にドイツ日本研究所に入所、日本政治と国際関係の比較研究に従事。2001年～02年まで同研究所副所長。2002年にハーバード大学日米関係プログラム上級リサーチ・フェロー、2003～04年にはハミルトン大学政治学助教を歴任。2004年にベルリン自由大学日本学部に着任し、2007～11年に歴史文化学部長、2009年より地域研究センター長、2011年より大学評議会のメンバーなどを務める。2012年から2020年までドイツ政府の「エクセレンス・イニシアチブ」によって設立された同大東アジア研究科長に就任した。2018年よりベルリン自由大学理事、2022年より現職。Social Science Japan Journal（東京大学発行）、Japan Forum（日英協会発行）の編集諮問会議委員。東京大学社会科学研究所の国際諮問委員、ヨーロッパ日本研究協会財務委員を兼任。日本政治、政治経済学、国際関係に関する著書および執筆記事多数。

クレーメンス・フォン・ゲッツェ (Ambassador Dr. Clemens von GOETZE)

駐日独連邦共和国大使

軍役を終了後、エアランゲン大学において歴史学で修士号、法学で博士号を取得。1990年より外務省勤務。駐フィリピン大使館で政治担当官、クラウス・キンケル及びヨシュカ・フィッシャー両外務大臣の筆頭秘書官を務めた。在トルコ大使館大使代行、政治安全保障EU大使、首相府外交部門長、アフリカ・アジア、ラテンアメリカ、中近東局長を歴任。2021年に現職に就く前にはイスラエル大使及び中国大使を務めた。

ペーター・ヘンニッケ (Prof. Dr. Peter HENNICKE)

日独エネルギー変革協議会ドイツ側議長

エネルギー転換、気候緩和、資源効率化を専門としてドイツ及び国際的にエコノミストとして活躍。ヴッパータール研究所の所長を務めたほか、ドイツ及び海外のハイレベルの委員会で活動。またローマクラブの正会員であり、2014年にドイツ環境賞を受賞し、2016年にはスウェーデンのヨーテボリ賞を受賞。出版物は20に上り200以上の論文を寄稿。GTETの共同座長を務め、2021年には日本政府から旭日中綬章を授与。

カール＝ルドルフ・コルテ (Karl-Rudolf KORTE)

デュイスブルク・エッセン大学政治学研究所教授

デュイスブルク・エッセン大学ではドイツの政治制度及び近代政治理論について教鞭をとる。1998年にルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘンで優秀教授資格を受賞。その後、トリアー、ケルン、ミュンヘン、デュイスブルクの各大学で教える。2004年から08年まで現代ドイツ研究アメリカ研究所 (AICGS) のフェローとしてワシントン DC に滞在、2006年にはデュイスブルク・エッセン大学の政治学研究所内の中央機関 NRW ガバナンススクールの創設に携わり現在、所長を務める。2013-18年にはドイツ政治学会会長、2021年からはドイツ大学教授・講師協会の副会長に就任。また2022年からは超党派による新たな組織、ヘルムート・コール財団の諮問委員会委員長を務めている。研究テーマとして、選挙、政党、政府、政治的コミュニケーションがある。選挙結果等の報道など、新聞、テレビ等の各メディアに登場し高い知名度を持つ。政治学ジャーナルのマネージングエディターも務める。主な近著に『権力の顔』がある。

クラウディア・マヨア (Dr. Claudia MAJOR)

ドイツ国際安全保障研究所国際安全保障研究部長

ドイツ及びヨーロッパ、大西洋の間の安全保障、国防に関する研究、発表に従事。とりわけドイツの NATO 及び EU に関連した政治活動の分析を専門とする。スイス連邦工科大学チューリッヒ校安全保障研究所、ドイツ外交問題評議会、安全保障 EU 研究所、ドイツ外務省 NATO 局での勤務を歴任。ドイツ外務省民生危機予防諮問委員会、独英ケーニッヒスヴィンター会議の委員を務める。ベルリン自由大学およびパリ政治学院より学位、バーミンガム大学で博士号を取得。フランス政府から国家功労勲章を授与。

マティアス・モースドルフ (Matthias MOOSDORF)

独連邦議会議員 (ドイツのための選択肢)

1986年から91年まで、ライプチヒのフェリックス・メンデルスゾーン音楽アカデミーに在籍したのち、ケルン及びロンドンにてアマデウス弦楽四重奏団で室内音楽を学ぶ。1992年から96年までライプチヒ音楽演劇大学で助手を務め、その後、フェリックス・メンデルスゾーン音楽アカデミーにて、チェロと室内楽の教鞭をとる。2008年から13年まで東京芸術大学にて、招へい教授として活躍。2016年よりザクセン州の政治に関与。ピエロ・リュネール財団創設。2016年からドイツのための選択肢党に入党し、2017年から21年までドイツ連邦議会でリサーチアシスタントして活動。2021年に連邦議員となり、外務委員会、教育・研究・技術委員会、欧州連合 (EU) 委員会に所属。

ミヒャエル・ミュラー (Michael MÜLLER)

独連邦議会議員 (ドイツ社会民主党)

経済・管理に関する技術大学を卒業後、2011年より自営の印刷業に従事。1981年にドイツ社会民主党 (SPD) に入党し、1996年にベルリン市議会の下院議員に当選。2021年に社民党の議員議長となり、11年にはベルリン市長及び都市開発環境担当上院議員に選出。2014年に再選、文化担当上院議員に就任し、2016年の再選時には、科学技術担当上院議員となる。2017年、連邦参議院議長。2021年10月より、連邦議員となり、外務委員会委員、社民党東アジア・中近東担当議員、日独議員連盟議長、アフガニスタン関与評価委員会議長を務める。

フランク・ミュラー=ローゼントリット (Frank MUELLER-ROSENTRITT)

独連邦議会議員 (自由民主党)

2017年9月より自由民主党選出の連邦議員。議会では外務委員会に属し、中国、台湾、日本、インド南北朝鮮、ASEAN、オーストラリア、ニュージーランドを担当する自由党の議会ラポルツールを務める。財政委員会の副委員及び自国及び海外のユダヤ人の生活に関する専門家。2016年から19年にはザクセン州の自由民主党副会長、また19年から21年には同会長を務めた。。

ユリア・ミュンヒ (Dr. Julia MÜNCH)

ベルリン日独センター事務総長

2020年よりベルリン日独センターの事務総長を務める。ゲッティンゲン大学とボン大学において日本学、ビジネス、心理学の修士号を取得し、デュースブルク=エッセン大学で博士号を取得。2007年-2013年に日独産業協会 (DJW) 事務局長及び常任理事に就任。多くの非営利団体の運営にも携わり、日独文化交流財団会長や独日協会連合会 (VDJG) の理事として活躍。

ガブリエレ・フォークト (Prof. Dr. Gabriele VOGT)

ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘンアジア研究学部長・日本学科長

ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘンで日本研究のチェアを務める。同大学で日本研究、政治学、社会学を専攻し1998年に修士号取得、その後ハンブルク大学で2002年に博士号を取得した。日本の人口変動、国際労働移住、地方政治および社会運動を研究分野とするほか沖縄の政治、社会に関心を持つ。2016年から早稲田大学で客員教授を勤めている。また九州大学や中央大学、上智大学でも教鞭をとった。ハンブルク大学、ドイツ日本研究所、琉球大学、コーネル大学でも研究に携わった。現在、ベルリン人口発展研究所の科学担当理事を務める。ドイツ国立学術財団及び社会科学日本ジャーナルの欧州のリエゾン・オフィサーでもある。近著作に「COVID19と日本の閉鎖制作の復活」、「日本の長期介護におけるロボットとIT—職場から見た可能性と限界」がある。

ヨーハン・ワーデフル (Dr. Johann D. WADEPHUL)

独連邦議会議員(キリスト教民主同盟・社会同盟)

2009年より独連邦議会議員。2018年より、キリスト教民主同盟・社会同盟 (CDU/CSU) の議会内の外交・防衛・欧州評議会委員会副委員長。(キリスト教民主同盟・社会同盟の連邦議会議員の中で最高位の議員として活動) クリスティアン・アルブレヒト大学キールで法律を専攻し1996年に博士号を取得。卒業後、ヘルスケア、社会法を専門とする弁護士として活躍。キリスト教民主同盟には1982年に入党し、シュレースヴィヒ=ホルシュタイン州で活躍。2000年から09年までシュレースヴィヒ=ホルシュタイン州議会議員となり、州のキリスト教民主同盟・社会同盟の議長を務める。議会では外交委員会、防衛委員会、EU委員会、NATO議員会議へのドイツ議員代表団代表、南コーカス諸国との議員友好グループ代表、IPUドイツ代表団メンバー。シュレースヴィヒ・ホルシュタイン州 CDU 議員団議長、独露ピーターズバーグダイアログ執行委員、DGAP 諮問委員等を歴任。

フランツ・ヴァルデンベルガー (Prof. Dr. Franz WALDENBERGER)

ドイツ日本研究所所長

2014年10月より、現職。休職中のミュンヘン大学日本センターでは教授として日本経済を専攻。ハイデルベルク、東京、ケルンの各大学で経済学を学び、1990年に博士号、1996年に博士課程教授資格をケルン大学社会経済学部にて取得。ケルン大学研究助手(1986-89年)、ドイツ連邦共和国独占委員会リサーチ・アソシエート(1989-92年)を経てドイツ日本研究所(在東京)にて日本経済の比較研究に従事し(1992-97年)、1997年よりミュンヘン大学日本センター教授。東京大学(2001、2002年)、大阪市立大学(2002年)、一橋大学(2006年)、筑波大学(2008、2009年、2010~12年)にて客員教授として教鞭をとる。日本政策投資銀行設備投資研究所下村フェロー(2003年)を歴任。日本経済に関する書籍や記事の執筆・編集多数。経済界と学術界をつなぎ、日独間の理解と協力を深める活動に精力的に取り組んでいる。

ゲルハルト・ヴィースホイ (Gerhard WIESHEU)

B・メツラー・ゼール・ゾーン&Co.・ホールディングス株式会社取締役

2001年よりメツェラーに勤務。2012年にメツェラー銀行に合併し、現在、資産管理部門を管轄し、米国での不動産部門を総括。さらにメツェラー資産管理及び年金管理委員会及び会長を務める。また野村アセット・マネジメントの管理委員会のメンバー。2020年より、フランクフルトアムマインの理事長、また日本のメツェラーアセットマネジメント社、米国にあるメツェラー関連企業であるメツェラー不動産アドバイザーズ、Metzler/Payden&Rygel等の役員を務める。メツラー社に入社する以前にはフランクフルトでコメルツ銀行の執行役員を務め、1994年から1999年には同社の日本支社の執行役員と務めた。この間、日本アセット・マネジメント協会の会員となった。それ以前には1987年にコメルツ銀行に入社しさまざまな職種を経験した。ドイツのライドシャット大学で経営学の修士号をとり、デュイスブルグ大学で東アジア経済を学んだ(1987-89年)。

ヤング・リーダーズプロフィール

ダニエラ・プラシュケ (Dr. Daniela BLASCHKE)

フォルクスワーゲングループジャパン株式会社フォルクスワーゲングループ東京技術代表
オフィス渉外担当・イノベーションストラジテスト & フォルクスワーゲングループ
フューチャーヘッドネットワークリーダーシップメンバー

フォルクスワーゲングループジャパン株式会社の渉外担当およびイノベーションストラジ
テストとして、南アジアや東アジアにおける規制や政治社会状況を踏まえた技術革新について
調査を行う。現職以前は、ドイツ連邦総務省にて技術革新フェローとして勤務、公務員の日
常業務の効率化支援、利害関係者中心主義への転換の推進、業務デジタル化に取り組んだ。
フォルクスワーゲンでのキャリアは、ドイツ本社でスタートし、利害関係者との連絡・調整
や広報戦略、サステナビリティ等の分野を担当した。その間、会社内のネットワーク・トラ
ンスフォーメーション立ち上げに関する国際プロジェクトを主導した他、ベルリン自由大学
哲学・人文学大学院にて研究を行い、企業の社会的責任をテーマに博士論文を執筆した。メ
ディア、コミュニケーション科学、政治学、芸術、メディア媒体管理などの幅広い分野につ
いて、ベルリンとオスロで研究した。

ランドルフ・カー (Randolf CARR)

ミュンヘン安全保障会議財団政策担当シニアアドバイザー (留学休職中)

ミュンヘン安全保障会議 (msc) 財団政策担当シニアアドバイザーを務めると共に、2022年
9月まで、代理の政策部長を務め、10月からは、フェローとして日本のドイツ学術交流会に
てMSCフェローとして勤務。MSCでは、国際秩序やテクノロジーに関するプログラムを担
当。政治コミュニケーションおよび国際関係をグラスゴー、ドレスデン、サンクトペテルブ
ルクにて修める。独外務省、ドイツ外交問題評議会、アメリカ現代ドイツ研究所などでも研
究を重ねた。MSCでの研究成果を取めたアジア太平洋研究およびテクノロジー政策とイノベ
ーションに関しての近著がある。

池田 貴一

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構総務部主任

実地応用するためのハイリスク且つ革新的な技術の開発と応用を行う最大の国立研究開発機
関の1つである新エネルギー・産業技術総合開発機構にて総務部主任を務める。2015年から
18年にかけて、水素エネルギーとその生産から輸送、保管、そして、燃料電池、水素ステー
ション、水素電力、大規模水素供給網、パワーガス (余剰電力を気体燃料に変換 (気体
変換) して貯蔵・利用する方法) を含む水素の利用について技術開発の促進に従事した。国
際協力の分野では、水素エネルギーに関する閣僚会合をはじめとする国際会議やワークショ
ップの運営を担った。2019年からは、総務部に所属し、組織全体の業務生産性の向上に取り
組む。クラウドやAI、ディープラーニング (深層学習) の手法を用いて、様々な業務の計画
や実行に応用するため、組織横断型のタスクフォースを設立した。

佐久間 早紀

日本経済団体連合会（経団連）国際経済本部米国・貿易投資担当

経団連国際経済本部にて米国情勢や投資政策についての業務に従事。2017年の入所以来これまで、米国やヨーロッパ等の先進国との関係構築、TPP、WTO、EPA/FTAに関する公共政策アドボカシー、投資に関する国際取り決めなどの分野を担当。一橋大学を法学と経済学のダブルディグリーを取得して卒業、英国ウォーリック大学院にて国際関係修士号を取得。また、交換留学生としてオーストラリア国立大学にて学んだ。現在、ベルリン日独センター主催の日独ヤングリーダーズフォーラムの第15期メンバー。

×毛

×毛

×毛



Meisan Tameike Bldg. 7F.
1-1-12 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052
107-0052 東京都港区赤坂 1-1-12 明産溜池ビル 7F

Tel: (03) 6277-7811 Fax: (03) 6277-6712 | admin@jcie.or.jp